

定例市長記者会見録

日 時：10月22日(水) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者： 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、NHK、中部経済新聞、時事通信社

本日の案件は4件です。

1番目は「一宮市公式LINEに防災メニュー（防災LINE）を追加します」についてです。

本事業は、災害発生時だけでなく平常時も活用できる防災機能を追加するものです。防災LINEの追加機能を紹介します。まずは「避難所受付機能」です。実際に災害が発生すると、多くの方が避難所に殺到します。まず、受け付けの氏名・住所などを記入するところで行列ができ、さらに、記入した情報を職員がデータ入力して照合する必要があり、そこでも手間と時間がかかります。今回提供する防災LINEでは、事前に登録することで非常に手短かにチェックインできるだけでなく、自宅避難にも対応します。避難所には行かず自宅や車中での避難をされる方もいると思います。そうした方たちへの救援物資や食事の確保については、防災LINEで避難情報を把握することで対応できます。また、物資などを避難所で受け取る際に、家族を代表して一人で来られる場合もあると思います。これまでは、家族の情報を確認できず、周囲の人たちも本当に受取人の他に家族がいるのか疑うなど、現場ではさまざまなトラブルが想定されますが、防災LINEで登録していただくことで必要な情報をスムーズに確認できます。

次が「防災マップや防災用品チェック」です。スマホなどを使ってマップ上で避難所の開設状況や避難経路、道路の通行止め情報などを確認できます。さらに、平常時から防災用品の備蓄状況をセルフチェックする機能や、災害時の行動計画（タイムライン）を作る機能があります。また、位置情報付きの安否連絡機能があり、LINEでメッセージなどを送る際に自身の所在地と安否情報が自動的に付加され、受け取った人に送信者の居場所がすぐに分かるようになります。また「防災リンク集」も付きます。

市公式LINEの友だち登録をしていただくことで、防災LINEを使えるようになりますが、さらに避難所の受付機能において、一宮市ポータルサイトの「イチ・デジ」に個人情報事前に登録していただき防災LINEとID連携をしていただくことをお願いさせていただきます。

サービス開始の日時は本日の午後3時です。少し手続きが難しいので、スマホの操作が苦手な方にも防災LINEを使っていただけるよう、スマホ教室を開催します。申し込みは電話でできますので、ご応募ください。

また、今回の防災LINEを始めるにあたり、届出避難所制度という新しい制度もスタートさせます。公的には市の公共施設が指定避難所になりますが、それ以外に地域の皆さまから町内会の公民館などにみんなで避難したいという声が多くあります。実際に、能登半島の災

害現場でもそうした場所が大きな機能を果たしたそうです。このため、市も地域の「共助」を応援して、できるだけ平時から地域の避難場所を把握しておくことが緊急支援物資の必要量などを考える上で参考になります。この「共助」の機能を果たす届出避難所という制度を立ち上げ、地域の町内会や自主防災組織とのコミュニケーションをさらに密にしていきたいと考えています。

届出避難所の登録条件として、建築基準法などのルールを設けて対応させていただきま。詳細は、担当の危機管理課へ電話でお問い合わせいただければと思います。

2 番目は「防災 LINE のリリースに合わせて、登録キャンペーンを実施します」についてです。

先に説明しました防災 LINE について、より多くの市民の皆さまに登録していただくようキャンペーンを行うことにしました。市内在住の方を対象に抽選で 1 万 2,000 人に 2,000 円相当のポイントを提供するものです。応募期間は 10 月 22 日（水）から 12 月 19 日（金）までのおよそ 2 カ月間で、応募方法は、先ほどご紹介した「イチ・デジ」からの申し込みになります。期間中は相談窓口やコールセンターを設けますので、これを機会に多くの方にご登録いただきたいと思います。日頃から災害について考えていただくことで、災害に詳しい防災リーダーが誕生することを期待しています。

3 番目は「健康支援アプリ『kencom（ケンコム）』に新機能『おでかけマップ』を追加します」についてです。

kencom は、企業の健康保険組合のほか、神奈川県鎌倉市や岡山県岡山市などでも導入され、一宮市は自治体では 8 番目の導入になります。

導入に際して市からもいろいろな機能追加をお願いしており、今年の春からマイナポータルの医療情報を kencom に取り込めるようにしました。これにより、医療情報や薬の情報、健康診断、人間ドックのデータなどもマイナポータルから取り込めるようになり、マイナポータルでは 5 年で消えてしまうデータも、生涯保存できるようになりました。おかげをもちまして、2025 年当初の登録目標は 1 万人でしたが、この秋の時点で 1 万 2,000 人に到達し、大変多くの方にご利用いただいています。さらに、今回「おでかけマップ」を追加して、皆さまの外出や健康づくりがさらに進むことを期待しています。マップに掲載された施設に行き、スマホの GPS 機能を使ってチェックインするもので、市のスポーツ施設や一宮市食育推進協力店、ウォーキングコースに行ってくださいことでポイントを付与します。1 施設につき、1 日 1 回、1～3 ポイントまでに設定していますが、まずは散歩でお出かけいただくことにより健康の増進につながればいいなという思いで紹介させていただきました。

4 番目は「市職員向けアンケートの集計結果」についてです。

市でこうしたアンケートを公表するのは初めてです。職員が自身の持てる力を発揮できるよう働きやすい職場をつくることを目的に、市もいろいろ工夫をしています。最近、内閣

人事局から「令和6年度 国家公務員の働き方改革職員アンケート結果」が発表され話題になりました。これまでも職員の意見はさまざまな形で聞いてきましたが、今回は国家公務員のアンケートの設問を意識して市職員にアンケートを実施しました。また、一宮市役所で働いている人たちは、こういうところは国家公務員より満足している、または不満である、といった比較ができるように取りまとめも行いました。当然、今頑張っている職員が一層活躍できるようにという思いもありますし、併せてリクルート対策になればという思いで公表させていただきます。

集計結果につきましては、市職員の対象3,971人のうち、1,453人から回答があり、回答率は4割弱でした。国家公務員のアンケートでも対象約17万人のうち、回答率が4割弱でしたので、回答率はほぼ同じという結果でした。

「休暇取得しやすい環境」と「男女ともに活躍できる環境」は、肯定的な意見がそれぞれ7割弱という結果で、国と一宮市はほぼ変わらない結果になっています。

「テレワークの利用しやすい環境」では、やはり国の方が「進展した」と感じている割合は高い結果となりました。市は窓口業務を中心に市民と最前線で接する仕事が多いこともあり、ここはなかなか進んでいないなという状況です。

「職場の働きやすさ」は、市も国も7割弱が肯定的です。「職場での働きがい」も、市は7割近くが「非常にある」「ややある」と回答していて、国の約55%と比べると10ポイント程度高く、ここはよかったなと思っています。

「周囲との助け合い」や「上司や周囲へのコミュニケーション・相談のしやすさ」は、やはり国家公務員と比べたら地方公共団体で転勤もありませんし、多くの職員が同じような業務を経験しているので職員同士の仲はいいのだろうと、ある程度は想像していましたが、いい数字が出ていると受け止めています。

「社会的評価の高さ」では、国も市も「感じる」との回答がほぼ4割弱ですが、ここで少し面白いデータがあります。市は職種ごとの結果もあり、消防士は社会的評価が高いと感じている割合が高い結果になりました。

「職場での自身の成長機会」では、市でも「非常に感じる」「やや感じる」が6割ほど出ており、私としてはうれしく思いました。ただ、「勤続に対する不安」がちょっと、市で8割を超える人が「ある」と回答しています。国は3割しかないのですが、この差は大きいところですが、残念ながらその主な理由というところで「育児や介護との両立」が多く、「健康面の不安」「職場の人間関係」と続きます。「職場の人間関係」については、周囲との助け合いなどではプラスの要因なのでしょうが、逆にどうしても人間関係が近いせいか、勤続に対する不安というのはなかなか拭えず、市としてもこれからも気を配らないといけないところだと思っています。

国のアンケート結果と比較分析を公表している自治体はまだないようですが、できればこのような数字も出しながらリクルート対策になればと思いますし、もちろん今働いている職員たちには、持てる力を最大限に発揮してもらえような子育て環境を引き続き整えていこうと考えています。

私からの説明は以上です。

質疑応答

■No. 1 一宮市公式 LINE に防災メニュー（防災 LINE）を追加します

（記者）避難所の受付機能で、家族分もまとめて受け付けできるとのことですが、人数の上限はありますか？

（職員）「イチ・デジ」上で家族連携した情報がそのまま防災 LINE に引き継がれますので、その連携された人数が上限となります。

（記者）キャンペーンで、抽選 1 万 2,000 人にポイントをプレゼントするとのことですが、登録者数の目標は 1 万 2,000 人ですか？

（市長）抽選としていますので、12 月 19 日までのキャンペーン期間中の 2 カ月間で 1 万 2,000 人を超えるのが目標です。

（記者）昨年度から、いろいろな DX の施策を行ってきましたが、今回の防災 LINE が一つの区切りとなるのでしょうか？今後も発展させていくのでしょうか？

（市長）今、一宮スマートシティ推進協議会（i-スマ）で、官民連携として民間企業にも集まっていただき、意見交換・情報交換を重ねています。DX の X（トランスフォーメーション：変革）で大きく変えるときに、市役所だけでは全然変わらないので、本当に X（変革）しようと思ったら企業の皆さんとコラボしないといけないというのが、私の信念です。次は、本来あるべき姿として民間事業者の団体と組んで、日々の生活で便利だと思ってもらえるような施策に踏み込みたいというのが私の来年度に向けての考えです。

（記者）「防災 LINE」で、期待するところを改めて聞かせてください。

（市長）避難所の受付機能など災害時だけでなく、平時から備えていただけるように、防災用品の備蓄状況やタイムラインなどの機能を使っていただく意識が広がることを期待しています。

（記者）今回、アプリではなく LINE のメニューに追加する形に変えた理由は何ですか？

（市長）「イチ・デジ」も単独でアプリのダウンロードができますが、登録者数は約 4,000 人で、まだ市の人口の 1%程度です。その結果を見ても、今はいろいろなアプリが世の中に増えているだけに、新しくこのためだけにダウンロードしてもらうことはハードルが高いという認識です。現在、市公式 LINE の友だち登録者数は、既に 1 万人以上いますので、それならハードルが低いと考えて LINE のメニューに追加する形に変更しました。

（記者）少し予算的には抑えられたのですか？

（職員）当初に想定していた金額より抑えられています。

■No. 4 市職員向けアンケートの集計結果

（記者）集計結果をウェブなどで公表する予定はありますか？

(市長) はい。今日、早速ウェブに掲載します。

(記者) 今回、公表することとなった経緯は？

(市長) 今までの働き方に対するアンケートは、内部での活用が前提の自由記入形式で、不満があったら書いてくださいというものでした。今年度のアンケートを実施するにあたり、内閣人事局が公表している国家公務員のアンケート結果の設問に合わせて聞いてみて、国と比べてみたら興味深いということで、その集計結果を初めて公表することとしました。

(記者) 集計結果の中で、最も評価できる点や懸念する点を挙げていただけますか？

(市長) 私は、「職場での働きがい」が、「非常にある」、「ややある」と答えた市職員が7割近くいるということが、大変うれしかったです。国家公務員では約55%ですから、これは、誇れる結果でした。

ただ「勤続に対する不安」が「ある」と答えた割合が8割を超えたのは、国家公務員の約3割に比べて非常に高く、かなり心配しています。やはり、「育児や介護との両立」や、「健康面の不安」、「職場の人間関係」などで、市ができることを考えていかなければいけないと思っています。